

WORK



ワーク V OSAKA

障害者雇用情報誌

大阪府商工労働部雇用推進室

平成19年秋号

# 働く障害のある人を訪問しました

～有限会社 奥進システムを訪問して～

大阪市職業リハビリテーションセンターの情報処理科の訓練（2年間）を修了後、その訓練を生かした仕事をされている障害のある人を訪問し、取材してきました。



お話を聞きした人達

## 会社概要

名 称 有限会社奥進システム  
所 在 地 本 社：大阪府守口市梶町4-22-2  
大阪 office：大阪府中央区錦屋町2-2-4  
イテクラビル4F  
代 表 者 代表取締役 奥 脇 学  
事 業 内 容 業務管理システム開発、  
ECサイト制作・運営、  
UNIX系システム開発、  
システムコンサルティング、  
WEB プロモーション

## 《お話を聞きした人》

(右後方) 代表取締役 奥脇 学 (おくわき まなぶ) さん  
(左後方) 市川 育子 (いちかわ いくこ) さん  
(右前方) 福井 謙一 (ふくい けんいち) さん [就職して1年3か月・頸髄損傷障害1級]  
(左前方) 小西 秀幸 (こにし ひでゆき) さん [就職して3か月・頸髄損傷障害1級]

## 《福井さんにお話を聞きしました》

### ● 福井さんが今取り組まれているお仕事についてお聞かせください。

現在、5月半ばから3か月を納期とするオンラインショッピングサイトのプログラミングを担当しています。

お客様に満足していただける内容とすることはもちろんですが、最終的にこのサイトが利用する一般消費者の方に喜ばれるものになればと思っています。



パソコン作業をする福井さん

### ● 福井さん、今までの仕事で印象に残っているお仕事についてお聞かせください。

私と同じような脊髄損傷のある人を対象に、いつ、なぜ障害を負ったのか等をホームページ上でアンケート調査し、その回答を分析するシステムを作成しました。

私自身、同じ障害を負っていますし、また一人でプログラミングをした初めての仕事ということもあり、印象に残っています。

● **専門的な仕事だと思うのですが、昔からこのような仕事をしたいと思っておられたのですか。**

私は、18才の時に頸髄に障害を負い、日常生活を送る上で車椅子が必要になりました。

障害を負った時に、「仕事をするためには何が必要か」ということを真剣に考えた結果、IT技術を習得すれば就職につながると思い、大阪市職業リハビリテーションセンターでパソコンの専門的な技術を学びました。この障害を負っていなければ、IT関係の仕事は選んでいなかったと思います。

● **仕事をしていて、楽しいと覚えること。逆に、苦しいと覚えるのはどんなことですか。**

当社では、週3日（月、木、金）は出勤、週2日（火、水）は在宅で仕事をしています。

難しい内容の仕事が求められた時は、仕事がなかなか進まず、思い悩んでいるうちに一日があっという間に過ぎてしまっている時があります。

仕事に勢いがつくと、在宅での仕事は集中できるという良い面もあるのですが、一度行き詰まると、孤独を感じ、落ち込んでしまうことがあります。これが、苦しいことでしょうか。

しかし、このように非常に苦勞して自分の作ったソフトが世に出て使われていることが、仕事をしていてうれしいことです。

● **福井さん、これから就職を目指す人へ一言お願いします。**

私は、社会とつながってほしいという思いが人一倍強く、そのためには、「絶対に就職しなければいけない」と考えていました。そのため、就職につながると信じたITの勉強を、大阪市職業リハビリテーションセンターで2年間懸命に行いました。そのおかげで、今の私があります。

皆さんも、ぜひ目的意識をもってがんばってほしいと思います。

《小西さんにお話をお聞きしました》

● **小西さんが今取り組まれているお仕事についてお聞かせください。**

インターネット上にあるコンピュータにソフトを送るシステムのプログラミングを担当しています。

● **仕事をしていて、楽しいと覚えられることについてお聞かせください。**

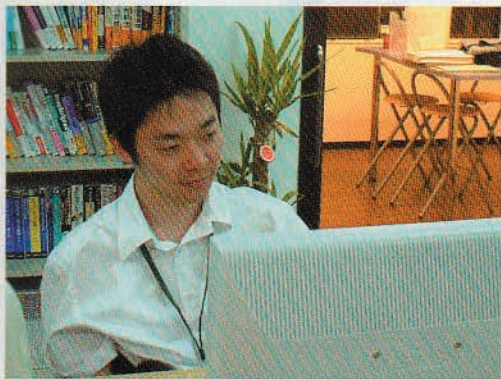
当社で初めてプログラミングし納品したソフトが、お客様が最初予定していた以外の目的でまず使われたようなのですが、それが思いのほか好評であったということをお聞きし、とてもうれしかったです。これからも、皆様に喜ばれるものを作成していきたいと思っています。

● **小西さんは、昔からこのような仕事をしたいと思っておられたのですか。**

私は、障害を負う前は自動車修理の学校へ通っていましたが、パソコンは普通に使う側の立場でした。

しかし、19才を過ぎて障害を負い、車椅子生活になったことにより、自動車修理の道は難しくなり、大阪市職業リハビリテーションセンターのパソコンの訓練を受けることにしました。

訓練修了後の就職活動で、既に先輩の福井さんが就職していた当社を見学に訪れたことをきっかけに、面接、実習を経て、今に至っています。



パソコン作業をする小西さん

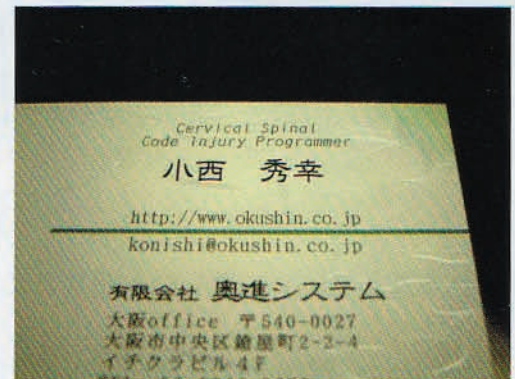
- 小西さんは就職されて3か月とのことですが、この会社に入社して感じたことはありますか。

当社は、社内では、役職等関係なく「さん」付けでお互いを呼びあっています。

また、名刺に印字する肩書きも各自自由に決めています。

ちなみに、私は「Cervical Spinal Code Injury Programmer (頸髄損傷のあるプログラマー)」です。

このように、自由な気風のとても風通しのよい会社です。



小西さんの名刺

- 小西さん、これから就職を目指す人へ一言お願いします。

最初はできることが少ないかもしれませんが、好きなことを続けていくことが大事なのではないかと思います。障害があっても世間は甘くないので、お互いに努力することを大切にしていきたいと思います。



大阪officeの社内風景



福井さん



小西さん

《開発のとりまとめをされている市川さんにお話をお聞きしました》

- 市川さん、二人と働いて感じる印象をお聞かせください。  
また、在宅勤務を一部導入されているとのことですが、雇用管理上の難しさはないのでしょうか。

彼らは社会とつながっていたいという思いが強いためか、仕事に対する姿勢がとても熱心です。そして、今や、この職場でなくてはならない存在です。

正直なところ、彼らを受入れる前、何か心構えや特別な配慮等が必要なのだろうか少し心配もしました。

しかし、実際に受入れてみますと、彼らができない部分（ファイリング等）のお手伝いは必要ですが、特に障害があるから仕事上での支障があるのではと心配していたようなことはありませんでした。

在宅勤務は、雇用管理が難しいのではと言われていますが、彼らの勤務態度には一定の信頼関係ができていますので、怠けているのではといった心配は今の所ありません。逆に、一人で仕事に行き詰って悩んでいないだろうかということが心配です。

昨年は1年ほど在宅勤務が主体の勤務スタイルでしたが、その間、福井さんが一度仕事に行き詰まり、落ち込んでしまう事態も正直ありました。

しかし、このことをきっかけに、ミーティングを中心に、仕事の進行管理やお互いの様子を気にかける等の情報交換をより丁寧に行うよい雰囲気のできたのではないかなあと感じます。

## 《代表取締役の奥脇さんにお話をお聞きしました》

### ● 奥脇社長、二人の受入れはどのようにされたのでしょうか。

大阪市職業リハビリテーションセンター情報処理科に見学をさせて頂いた時のご縁から、訓練生の就職に向けた実習の依頼をいただきました。

当時はとても新規採用を考えられる状況ではありませんでしたが、福井さんと出会い、共にごんぼってみたいと思い、平成18年2、3月の2か月間、福井さんの実習の受入れを行い、採用させていただきました。

その後、約1年、仕事の状況から一人増やしたいと考えているところにタイミング良く会社見学に訪れたのが小西さんでした。小西さんについても、採用前に1か月の実習をさせていただき、採用しました。

受入れにあたり、配慮した点といえば、バリアフリーのオフィス環境、パソコンを利用する際に必要なトラックボールマウス等でしょうか。



大阪office 入口  
(スロープ・引き戸)



車椅子仕様の机



トラックボールマウス

マウスを握らなくてもわずかの力でマウスを動かすことができます。



電動リフトと簡易ベッド

### ● 奥脇社長、最後に一言お願いします。

彼らは何より意欲が高く、熱心です。

また、お互いに得意分野も異なるなど、持ち味が違いますので、協力しあうことで、お客様が求められるレベルにとどまらない仕事をしてれています。

私が「障害者雇用」の観点から彼らを雇用しているようにみえるかも知れませんが、募集時に、たまたま縁のあった人が障害のある人であったということだけなのです。

誰でも働いてもらおうと思ったら、相手を理解しようとするし、配慮が必要な部分に配慮し、働きやすい環境を作るでしょう。そして、そのような部分は、障害のある人にかかわらず誰にでもあると思うのです。

私は、障害のある人を特別視して、その人達の聖域を作るのではなく、配慮が必要な部分（障害特性）を理解して、支援できる人が支援する会社の中の心配りが良い関係を作りあげるのではないかと考えています。

今後、「障害者雇用」が特別なことではなく、お互いを理解するという自然な形で進んでいくとよいなと思います。

## 平成19年度大阪府ハートフル企業大賞は 株式会社エルアイ武田 に決定しました!

大阪府では、障害者雇用に貢献する企業を府民に広く紹介するため、NPO法人大阪障害者雇用支援ネットワークと協働で、障害者雇用への貢献活動を評価するシステム「大阪府ハートフル企業(障害者雇用貢献企業)顕彰制度」を設けています。

この制度は、大阪府内の民間事業所を対象に、自主的にご応募またはご推薦いただいた障害者雇用に関わる様々な活動内容を審査し、優れた活動をしている事業所に対して表彰するものです。

今回、応募または推薦していただいた企業(39社)の中から、「大阪府ハートフル企業大賞」および「ランプのともしび大賞」の受賞企業が下記のとおり決定しました。

### ハートフル企業大賞

特に優れた障害者雇用に関わる取組みを評価します。  
大阪府知事が表彰します。



## 株式会社エルアイ武田(大阪市中央区)

### ランプのともしび大賞

様々な障害者雇用に関わる取組みのうち、特徴のある  
取組み・独自性を評価します。  
NPO 法人大阪障害者雇用支援ネットワークが表彰します。



有限会社梅川製作所(富田林市)

株式会社ウラノ(豊中市)

有限会社奥進システム(守口市)

株式会社山創「空」(大阪市天王寺区)

クボタワークス株式会社 (大阪市浪速区)

株式会社ダイキ 田川工場 (大阪市淀川区)

株式会社ワールド・ミュゼ (大阪市淀川区)

「大阪府ハートフル企業顕彰制度」の表彰式は9月11日(火)開催の「2007障害者雇用フォーラムin大阪」において行いました。

フォーラムの様子と、ご応募またはご推薦いただいた企業は次号で詳しくご紹介いたしますのでご期待ください。